

或人見鵲の巢
松杉檜の類の喬
木の梢茂を下
枝の近き木とて
くさくさつめ
其故ハ蛇のこひ
上ぬ為なり
又鵲の巢を
とむハ犬とて示
上りてあつたふ
あつたふとて巢
のふか枝を並
へて其上は松の皮
をききて巢を掛
る稠さあつたふ
古巢よりなる
也母鷹ハ鵲
父鷹ハ兄鵲

延喜大政官式云凡左右辨官各録入奏并請印文書及
請進驛鈴傳符色目牒送少納言ともぞく又其國守位
姓名趣任日所給若干刺傳符一枚右驛鈴一口ともぞく
るわあまのゆりまゝの巢のつるみふのやうにせう
古註ハ可尋とハ不詳やあつて鷹のや去年生れの子も
一昨年生れの子もあつた中ハ里よりくちやうとくちや
餌とて食ひ居るものやあつたよふにそれハ少くも多
生れハあつたが少くも居るものや此のよふにハ彼あ
るものもあつた成ぬもバゆりまゝのやあつたつるふ
あつたのやあつたよふに依りてあつたのやあつたの
あつたのやあつたよふに依りてあつたのやあつたの